

野菜を作る人と食べる人の顔が お互いに見える安心感

「エコ野菜地域循環モデル事業」

1月21日、JA東京むさし三鷹地区青壮年部のみなさんから大沢台小学校の子どもたちに、おおあおとした市内産のホウレンソウが配られました。このホウレンソウは、同校と中原保育園から出された生ごみを原料としてできた堆肥で作られた新鮮な市内産野菜です。



地域循環モデル事業の発端の発端になっています。

現在、市内から大量に出る生ごみは、ごみ処理場で焼却して無機質の灰になります。ごみ焼却場の処理量が有限であるため、ごみの減量は社会全体の課題になっています。生ごみの有効な使い道はないか。社会のしくみの中で循環させることができな

い生ごみを畑の肥料として役立てることができれば、単にご

みの減量につながるだけではなく、農家にとっても肥料の費用も少なく済むのではないかと考えた市の呼びかけに、JA東京むさし三鷹地区青壮年部のみなさんが熱心に応え、今回の市内産のホウレンソウの誕生になりました。

青壮年部長の石井さんは「エコ社会の実現に多少とも役立てばという気持ちももちろんありましたが、もう一方では、三鷹の農業をもっと市民のみなさんに理解してもらいたいという気持ちがありました。野菜を作る人と食べる人の顔がお互いに見える安心感。可能なかぎり自然栽培で育てられた野菜は、実際に食べても美味しいということ

に気づいてもらいたかった。」と語ってくれました。大地から生まれた野菜が私たちの食卓を彩り、そのごみは再び土に帰り、また新しい野菜を育てる...という、農産物の生産と消費、そして資源化の輪を、地域社会の中に根づかせていくことは、市にとっても決してなく、日本の社会全体にとっても大切なことです。本来は土に戻るべき落ち葉や枯れ枝、あるいは生ごみが、現在ではごみとして焼却処分され捨てられてしまっています。本当にこのままでいいのか。そんな疑問をみなさんに感じていただくきっかけになれば幸いです。

2月16日(月)午後2時から、三鷹駅南口中央通り沿いで、市内産ホウレンソウ物産(おひひの1束)を配布します。数に限りがありますので品切れの際はご容赦ください。

↓ごみ対策課 内線2533

を続けています。



インターハイと 国体冬季大会にスキー大回転で出場！ 小林樹生(みきお)さん (牟礼在住)

牟礼在住の小林樹生さん(成城学園高校3年)が、2月6日～10日に北海道で開催される全国高等学校スキー大会(インターハイ)と、21日～24日に山形県で行われる国民体育大会冬季大会(少年の部)で、アルペンスキー大回転に東京都代表として出場します。

東京都予選大会を勝ち抜いて代表選手7人に名を連ねた小林さんは三鷹生まれの三鷹育ち。スキーは幼稚園のころから経験していましたが、中学校でスキー部に入学し競技スキーに接して、どっぷりとはまりました。中学3年生で初めて東京都代表となり、以来ずっと都の強化指定選手として、シーズン中は合宿、オフシーズンには陸上トレーニングや水泳に励み、毎年インターハイに出場するなど活躍

学生が奉仕活動で 市役所などを体験

国際基督教大学のサービスマネジメント・プログラム



学生が一定の期間、公共機関や非営利機関で奉仕活動を行い、教室では学べない体験を学習するというサービスマネジメントという教育を国際基督教大学が行っています。活動は30日以上なので夏休みなどに行います。市民のみなさんどこかで彼らに会っているかもしれませんね。

当日は内容についての講演や学生の体験発表、また三鷹市をはじめとする受け入れ機関への感謝状授与などがあ

10年間学校農園ありがとう 学校から農園主に表彰状

種まきから収穫まで、一連の農作業を小学生が体験し、収穫の喜びや働くことの大切さを体験する学校農園。

一小的学校農園主として、平成6年から10年間、子どもたちに畑での農作業を指導してくれた須藤晃平さんが今年度でやめることとなり、1月19日の児童朝会で感謝の会が行われました。

当日、代表児童の6年生から「10年間どうもありがとう」と気持ちをこめた作文と花束を渡されると須藤さんは、「とても楽しかったです。

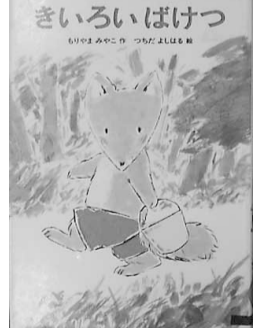


あつという間の10年間でした。私にも良い経験でした。」と笑顔で答えていました。来年度からは根岸一日さんが新しく農園主になってくださいます。



動物たちと仲良くなろう

最近、「癒し」という言葉をよく耳にします。動物たちとふれあい、心や体を癒す「アニマルセラピー」もその一つです。動物たちと本の中で出会う、仲良くなってみませんか。



きつねの子が見つけたきいろいばけつ。きつねの子は、ばけつがじぶんのものになった時のことを思い浮かべ何度もばけつを見に行きます。ばけつによせる思いが、幼い子どもの視点で描かれています。

◆「ポリーとはらべこオオカミ」 キャサリン・ストーリー作 河本祥子表紙絵 掛川恭子訳 岩波書店



◆「トガリ山のぼうけん① 風の草



トガリネズミのキッキとセッセ、クックはトガリじいさんの話が大好きです。おじいさんからトガリ山の話も聞いています。3匹の会話や想像もゆかいです。トガリ山の自然描写が美しい絵物語です。全8巻。

◆「ロバになったトム」 アン・ロレンス作 イオニクス挿絵 斎藤倫子訳 徳間書店



「あなたって、まぬけなロバね」とジエニファーがいうと、今までトムがいた所に、ロバが現れました。民話風の話の中に、自らの力で運命を切り開いていくジエニファーとトムの成長物語。

◆「猫ねこネコの物語」 ロイド・アリクザンダー作 ラッロ・クヒニ一絵 田村隆一訳 評論社



いやな代官を追い払うために、町長は賢いネコに相談をしました。そして代官が見た町は...町の代表者はネコ。町なかでは、ネコが洋服を作り、人間の床屋と肉屋はニャオニャオとないて喧嘩をしていました。他にユーモラスなネコの話が7編あります。